

令和6年度

学校自己評価表（計画）

学校運営計画		
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な学びの場を提供し、心身ともに健全な生徒を育成する。 小規模校の特徴を生かし、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の向上を図る。 地域と連携したキャリア教育を推進しつつ、将来の在り方・生き方を探究する生徒を育成する。 	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ①一人一人の個性や能力を伸ばし、未来を切り拓くための学力を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域振興の心を持ったグローバル人材となるための国際感覚とコミュニケーション能力を育成します。 ③地域や仲間と協力し、自ら課題を発見する力や課題解決案を考える力を育成します。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ①2つのコースを設置して、生徒の進路希望や興味関心に応じた、学ぶ意欲を高める授業を行います。 ②総合的な探究の時間、学校設定科目をとおして、地域連携や教科を横断した授業に取り組み、自ら課題を発見し、他者と協働して解決策を考える学習、活動を行います。 ③習熟度別授業を取り入れたわかる授業を行います。 ④課題に対し、生徒が自ら考え、適切に他者に伝え、答えを導き出そうと取り組む過程を、レポートや発表など多面的な評価方法でバランス良く評価します。 	
入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ①佐渡の自然や文化に魅力を感じ、地域の課題解決に向けた探究活動に意欲的に取り組む生徒 ②基礎的な学力を有し、主体的に学び続ける生徒 ③多様な考え方を受け入れ、互いに協力し、よりよい人間関係を築こうとする生徒 ④将来の自己実現と社会貢献をめざす意欲のある生徒 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>昨年度の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を教職員間でスムーズに情報共有することで、いじめ認知、生徒の悩みに早期に対応し、解決につながった。 地域と連携した取組が評価され、県、市のシンポジウムなどに高校生の代表として参加し、活躍した。 <p>今年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員間のより一層の情報共有を進め、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向け、組織的に対応する。 ICTをより一層活用し、生徒の学習活動や探究活動を推進する。 探究学習をさらに推進し、地元地域の他、島外と連携した取組、探究活動を目指すとともに、生徒の進路実現につなげる。 	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康観察を確実に行うとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向け、学校一丸となって組織的に対応する。 生徒の社会性及び自立性の育成に努め、学校生活で「規律ある自由」を意識させ、高い社会規範を身につけさせる。
	学習指導及び進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせた授業の工夫・改善を行い、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を図る。 キャリア教育と連動させ、自己の可能性を発見させることで、生徒に明確な目標をもたせた進路指導を推進する。
	ICTを活用した学ぶ意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体でICTを活用し、一人一台端末を生かした新たな取組に積極的に挑戦する。 遠隔授業を行い、より専門性の高い授業を行うことで、学習意欲を高める。
	さらなる地域連携とキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性や豊かな教育資源を活用し、選ばれる学校に向けた取組と情報発信を行う。 主体的な活動を通して、チャレンジ精神、達成感・自己肯定感を高め、豊かな心と主体性・協調性やリーダーシップを育成する。

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
生徒指導 の充実	・生徒の健康観察を確実に行うとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期解決・早期解決一丸となって組織的に対応する。	1 学年	生徒の健康観察を毎日確実にを行う。	
			面談や日々の観察で生徒に寄り添い、心理的な不安の解消を図る。	
			いじめの未然防止に向けた啓発活動に努める。	
		2 学年	面談や日々の観察で生徒に寄り添い、心理的な不安の解消を図る。	
			いじめ類似行為・いじめの未然防止に向けた啓発活動に努め、早期発見・早期解決に向け、組織的に対応する。	
			生徒の健康観察を毎日確実にを行う。	
		3 学年	面談や日々の観察で生徒に寄り添い、心理的な不安の解消を図る。	
			いじめ類似行為・いじめの未然防止に向けた啓発活動に努め、早期発見・早期解決に向け、組織的に対応する。	
			生徒指導部	すべての職員や生徒同士がお互いの健康状態を把握できるように、最低週1回以上は、連絡などで注意を喚起し、意識させる。年3回のアンケートとクラスでの面談などにより、いじめの未然防止や早期発見・早期解決に努める。また、保護者へいじめ防止や相談窓口などの案内を通して、理解と協力のもと連携して指導にあたる。
		教務部	情報の共有化を図り、会議の効率化に努める。	
			事態の変化に対応できる環境づくりに努める。	
			Webページを用いた学校からの発信に努める。	
・生徒の社会性及び自立性の育成に努め、学校生活で「規律ある自由」を意識させ、高い社会規範を身につけさせる。	1 学年	欠席や遅刻・早退の連絡を徹底させる。		
		制服の着こなしについて、HRや学年集会などで適宜指導する。		
		廊下・教室の整理整頓を徹底する。		
	2 学年	欠席や遅刻・早退の連絡を徹底させる。		
		身だしなみ・制服の着こなしについて、HRや学年集会などで適宜指導する。		
		廊下・教室の整理整頓を徹底する。		
	3 学年	欠席や遅刻・早退の連絡を徹底させる。		
		身だしなみ・制服の着こなしについて、HRや学年集会などで適宜指導する。		
		廊下・教室の整理整頓を徹底する。		
	教務部	P T Aとして地域の研修会に積極的に参加して、学校間・地域との連携を密にする。		
		「P T Aだより」を発行し、保護者への広報活動を行う。		
	生徒指導部	頭髪服装検査を学期に1回実施するとともに、日常でも注意喚起を行う。		
		学期に1回以上、生徒会が主体となり、交通安全やいじめ防止等の取り組みを行う。		
		年3回以上、全校集会でマナーの向上について働きかけを行う。		
		バイク実技講習会を通して技術の向上を促し交通事故件数0件を目指す。		
		全校生徒対象の交通安全講演会を行う。		
		交通安全街頭指導を全職員が協力して行う。		
		薬物乱用防止の講演会を行い、生徒の自覚を促す。		
生徒指導に関する情報について、P T Aだより、保護者案内などを通して周知し、理解と協力を得る。				
生徒指導に関する問題について、家庭や専門機関などと連携して指導に当たる。				
学習指導 及び進路 指導の充実	・生徒の実態に合わせた授業の工夫・改善を行い、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を図る。	1 学年	学習意欲の向上と節度ある学校生活を目指し、チャイム着席を徹底する。	
			課題やワーク・ノート・ファイルなどの提出を徹底する。	
			各教科との情報交換をもとに、生徒との個別面談を年間3回以上実施する。	
			学校生活の様子や行事予定などの情報を提供するために、「学年だより」を学期に1回以上発行し、生徒の学校生活に対して保護者との共通理解をはかる。	

	2 学年	課題やワーク・ノート・ファイルなどの提出を徹底する。			
		各教科との情報交換をもとに、生徒との個別面談を年間3回以上実施する。			
		学校生活の様子や行事予定などの情報を提供するために、「学年だより」を学期に1回以上発行し、生徒の学校生活に対して保護者との共通理解をはかる。			
	3 学年	授業への意欲向上と節度ある学校生活を目指し、課題などの提出を徹底する。			
		各教科との情報交換をもとに、生徒との個別面談を学期に2回以上実施する。			
		学校生活の様子や行事予定などの情報を提供するために、「学年だより」を年間で5回以上発行し、生徒の学校生活に対して保護者との共通理解をはかる。			
	教務部	豊かな人間性と主体的に学ぶ態度・習慣を育成するために各学年と連携し、授業・行事・考査等のバランスを取り、家庭学習を含む生徒の学習活動の充実を図る。			
	・キャリア教育と連動させ、自己の可能性を発見させることで、生徒に明確な目標をもたせた進路指導を推進する。	1 学年	進路指導に関する生徒との個別面談を学年で1回以上実施する。		
			保護者と教職員が連携した教育活動が展開できるよう、保護者との個人面談を年1回以上実施する。		
2 学年		進路指導に関する生徒との個別面談を年1回以上実施する。			
		保護者と教職員が連携した教育活動が展開できるよう、保護者との個人面談を年1回以上実施する。			
3 学年		進路指導に関する生徒との個別面談を年2回以上実施する。			
		保護者との協力のもと、教育活動が展開できるよう、生徒、保護者との三者面談を、年1回以上実施する。			
教務部		進路希望に即した科目選択ができるよう、生徒への情報提供に努める。			
		豊かな人間性と確かな学力の基盤を育成するために授業・行事・考査等のバランスの取れた計画を立案する。			
進路指導部		1年生で職業レディネステストを実施し、適性、興味・関心について自己理解を深め、進路希望につなげる。			
		各学年と連携して、模擬試験を有効に活用する。			
		年間 1年生3回、2年生4回、3年生9回、小論文模試を2回以上実施し、大学等進学希望者に受験を促す。			
		各学年と連携して、年2回の進路ガイダンス等の充実に努める。			
		「総合的な探究の時間」等で行われる進路学習において、学年団と連携し、ガイダンス等の充実に努め、生徒への進路情報の提供を支援する。			
		進路に関する資料提供を充実させる。HRへの配付資料を精査する。進学相談室内の資料の整備に努め、利用しやすい環境にする。			
		進路だよりを年間3回以上発行する。			
	自己情報と進路情報を接近させ、進路に対する自己概念を明確にするため、HR担任などと連携し、キャリア・カウンセリングを継続的に行う。				
	オープンキャンパスやWeb等での講演会・説明会等への参加を促すことなどにより、啓発的経験をさせる。				
	LHR、「総合的な探究の時間」などにおける、新入生意識啓発講演会、進路ガイダンス等において充実した講師を紹介する。				
	PTAとの連携を図り、保護者の意識啓発のためのガイダンスを年1回以上行う。				
	学年と協力して、大学・短大、看護系専門学校等への進学希望者には模擬試験の受験を促し、学力の向上を図る。				
	各教科、学年による、進学のための放課後補習、夏季補習などの支援をし、受験に対しての意識を高める。				
公務員希望者に対し、模試やセミナーへの受験・参加を促す。					
関係機関と協力し、求人情報を充実させ、生徒等に周知する。					
就職相談室を利用しやすくし、資料を充実させる。					

			<p>クラス担任との連携により、生徒・保護者の意向を聞き、整理し、ミスマッチをなくす。</p> <p>1年生：働く意義を考え、夢のある進路選択のきっかけとするため、講演会・ガイダンスを3回以上実施する。</p> <p>2年生：勤労観・職業観を目的とした、全員の課題解決型職場体験インターンシップの実施に協力する。</p> <p>2年生：2年生終了時には、進路目標を明確にできるよう、講演会やガイダンスを年3回以上行う。</p> <p>3年生：進路目標を明確にできるよう、講演会やガイダンスを1学期中に2回以上行う。</p> <p>進路希望が明確でない生徒に対して積極的に働きかけ、年度内進路希望未決定者0名を目指す。</p>		
ICTを活用した学ぶ意欲の醸成	<p>・学校全体でICTを活用し、一人一台端末を生かした新たな取組を戦する。</p> <p>・遠隔授業を行い、より専門性の高い授業を行うことで、学習意欲を高める。</p>	1 学年	LHRや総合的な探究の時間で、調べ学習、まとめ発表活動にICT機器を活用する。		
		2 学年	探究活動の課題など、ICT機器での記録・発表ができるようサポートする。		
			遠隔授業など、教科書・プリント・タブレット等複数のツールを上手に使い分けられるようサポートする。		
		3 学年	Google Workspace for Educationを活用して、課題に取り組ませる。		
			授業や課題提出の際に、ICT機器での記録・発表ができるようサポートする。		
			遠隔授業など、教科書・プリント・タブレット等複数のツールを上手に使い分けられるようサポートする。		
		教務部	校務支援システムを円滑に運用するとともに、指導と評価の一体化を促進する。		
電子黒板の利用を促進するとともに利用の調整を図る。					
Google Workspace for Education等を利用した課題の発信・成績評価の促進を図る。					
さらなる地域連携とキャリア教育の推進	<p>・地域の特性や豊かな教育資源を活用し、選ばれる学校に向けた取組と情報発信を行う。</p>	1 学年	「総合的な探究の時間」(佐渡学)を中心に、地域と連携した取組の推進や探究活動に積極的に取り組む。		
			ポートフォリオ等を積極的に活用し、地域との連携した取組に生徒が自ら取り組めるよう、意識啓発に努める。		
		2 学年	「総合的な探究の時間」(佐渡学(地域探究))を中心に、地域と連携した取組の推進や探究活動に積極的に取り組む。		
			ポートフォリオ等を積極的に活用し、地域と連携した活動に生徒が主体的に取り組めるよう、サポートする。		
		3 学年	「総合的な探究の時間」や地域探究科目を中心に、地域と連携した取組の推進に積極的に取り組む。		
			Google Workspace for Education等を積極的に活用し、地域との連携した取組に生徒が自ら取り組めるよう、意識啓発に努める。		
		教務部	「地域探究コース」の学習を通して、生徒が自ら考え学習・探究ができるよう授業担当者のサポートをする。		
地域と連携した取り組みを推進するための校外活動を調整する。					
地域と連携した取り組みの成果をWebページや学校案内を通して、中学生や保護者、地域に向け発信する。					
中学生オープンスクールの内容の充実を図る。					
・主体的な活動を通して、チャレンジ精神、達成感・自己肯定感を高め、豊かな心と主体性・協調性やリーダー		1 学年	学校行事や部活動等に積極的に参加できるような雰囲気をつくる。		
			委員や係の仕事を、全員が最後までやり遂げられるよう支援する。		
		2 学年	教職員間で協力し、学校行事や部活動等に積極的に参加できるような雰囲気をつくる。		
			生徒会活動において、生徒が達成感や充実感を味わえる機会を作り、主体的に活動できるよう努める。		
3 学年	最高学年として後輩ヘリーダーシップを発揮し、まとまりのある学校をつくる。				

		教務部	学習成果発表の機会をつくる。			
		生徒指導部	生徒会が主体となって行事の企画・運営に取り組む環境を整えるとともに、課題が生じた場合は、調整することのできる力を身につけさせる。			
			3年生引退後の秋以降は、合同練習などを計画的に取り組むことで、運動部全体の体力強化と意識の向上をはかる。			
成果						総合評価